

【様式】

令和6年度 学校マネジメントシート

学校名(三重県立昴学園高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校の姿		総合学科、全寮制などの特色を生かして次のような人材育成や学校づくりを目指す。 ○卒業後に社会で活躍できるように主体的に行動できる人材の育成 ○何事にも誠実にかつ意欲的に取り組むとともに、思いやりを持って人と接することができる人材の育成 ○地域との連携を深め、地域から信頼されるとともに、地域から必要とされる人材の育成
(2)	育みたい資質・能力(育みたい生徒の姿)	○様々な困難にも自ら主体的に取り組み、社会の課題を自分事として捉え、課題解決に向かう姿勢が育まれている生徒 ○自尊感情を持ち、様々な他者に対して共感する心を持ち、仲間と共に課題解決に向かう姿勢が育まれている生徒
	【グラデュエーション・ポリシー】	
	ありたい教職員の姿	○生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、授業力向上に向けた自己研鑽に励み、相互協力し、積極的にカリキュラムマネジメントに参加する教職員 ○生徒の成長を自らの喜びとして、いきいきとやりがいを持って働くことのできる教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<生徒> 教員や仲間と楽しく学び合い活動する中で自分のよさや可能性を見出し、存在感や自己実現の喜びを実感する。 <保護者> 丁寧な教育の充実をさらに進め、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら発達段階に応じた成長が見られる。 <地域社会> 昴学園の魅力化を進めることで、高校の存続から波及し、地域の活性化へと繋がる。	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<家庭> 安心・安全な学習環境の中で、きめ細やかな指導により、子どもが自主性や自律性を身に付ける教育の提供 <中学校> 全寮制のシステムを生かし、家庭環境等、様々な課題を抱えた子どもが生き生きと学べる場の提供 <地域社会> 地域の活性化のために、学校の魅力化を図り、学校のさらなる活性化	<家庭> 本校教育方針への理解と協力、双方向の連携 <中学校> 生徒の学ぶ意欲の向上及び継続的・効果的な指導のため、個々の生徒一人ひとりの詳細な情報提供 <地域社会> 本校の教育活動を理解し、地域の産業や行政からの積極的かつ具体的な支援

(3)前年度の学校関係者評価など		○中学生に対して、良くなりつつある本校の学びや進路実績を一層周知すると良い。 ○今年度行った「大台探究」等の事業を今後どのように継続して追求していくのかを教員で共通認識しておく必要がある。 ○地域との連携を更に深めながら昇学園の学びを充実して欲しい。 ○様々な場面で発表等をより増やし、生徒の自信につなげる機会を増やして欲しい。
(4)現状と課題	教育活動	○多くの生徒が自主性や自律性、協調性等、社会生活を営む上で必要な力を身につけて卒業していく。しかし一方で、自制心、意欲、忍耐力等の欠如から、寮生活や学校生活に適應することが難しい生徒もいる。 ○学ぶ意義や学び方などを理解できていない生徒が多い。学ぶ楽しさを教員と共に感じていく必要である。また、自ら課題を発見し、その解決策等を調べ、まとめて発表するなど、変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な主体的な課題解決能力の育成も必要である。 ○卒業生の約6割が進学し、そのうち5～6割が専門学校へ進学する。しかし、中には安易な進路決定もあり、社会的・職業的自立を目指した教科横断的なキャリア教育の充実と推進が必要である。
	学校運営等	○課題発生時に教職員が機動的かつ組織的に対応できる強みがある。 ○入学する生徒の多様化が進行していることから、より一層の生徒理解の深化と多面的な指導力の向上を図ることが必要である。 ○やりがいを持って働くことができる職場の環境づくりを目指して、教職員の負担の軽減を図るとともに、学校が抱える課題に対して教職員相互の対話と議論が必要である。 ○少子化が進む中、志願者を確保するため、学校のあり方について検討を早急に進める必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動 【カリキュラム・ポリシー】		① 基本方針 多様な能力・適正等を持つ生徒に対応し、自己の進路選択への自覚を深める動機付けとなる科目を開設する。また、生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導を心がけ、生徒一人ひとりに応じた指導内容や指導方法の工夫し、生徒の個性を生かした実践的・体験的な学習活動など柔軟な教育を行う。 ② 産業社会と人間 自己の生き方を探究させる観点から、自己啓発的な体験学習や討論などを通して、職業の選択決定に必要な能力・態度、将来の職業生活に必要な態度やコミュニケーション能力を養うとともに、自己の充実や生きがいを目指し、生涯にわたって学習に取り組む意欲や態度の育成を図る。 ③ 総合選択科目 国際交流系列、総合スポーツ系列、美術工芸系列、生活福祉系列、環境技術系列の5系列において生徒の興味・関心等に基づき選択を行うこととする。 ④ 自由選択科目 地域と連携し、身近な地域を学習フィールドとし、グループ学習等を通して、自らの生き方を探究する姿勢を養う。 ⑤ 多様な評価 各教科・科目において、生徒の良い点や変容等を積極的に評価することで生徒一人ひとりに応じた進路実現を図る。
学校運営等		① 教育活動に、教職員一人ひとりがやりがいを持って取り組めるように、情報共有や助け合いなどによるチームとしての学校づくりを進める。 ② 校務の効率化や職場の環境整備に努め、総労働時間の縮減を目指すとともに、働きやすい環境づくりを進める。

	③ 個々の教職員が日常的にコンプライアンス意識を高く保てるよう、様々な事例に基づいた主体的な研修を推進し、教育活動等に潜む課題の可視化を図り、教職員一丸となり信頼される学校づくりに努める。 ④ 本校の特色ある教育システムや内容等について、活性化の観点から今日的な意義や役割を検証し、強みは伸ばし、弱みは改善する。また、情報発信のあり方について工夫する。
--	--

4 求める生徒像

入学時に期待される生徒の姿 【アドミッション・ポリシー】	○本校の学習に強く興味・関心を持ち、主体的に学習に取り組める生徒 ○スポーツ活動・文化活動・生徒会活動等に積極的に取り組める生徒 ○寮・学校において協調性を持ち、規律正しい集団生活をしていける生徒
--	---

5 本年度の行動計画と評価

(1)教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習活動の充実	教育課程の改善や評価についての研究を進めるとともに、教科や系列を横断した授業づくりに取り組み、授業の質的向上を図る。また、授業内容全般に関して生徒の学ぶ意欲の向上を目指す。 【活動指標】 ○系列体験学習と学習成果発表会の充実 ○生徒の学ぶ意欲等に関するアンケート 【成果指標】 ○アンケートにおいて学ぶ意欲等が向上する生徒が70%以上	生徒アンケート「難しいことでも、失敗を恐れず挑戦する」において、3年生57%から61%、2年生51%から45%、1年生63%から65%となった。1,3年生で向上が見られたのが成果である。2年生への指導の在り方が課題である。	※
生徒指導の充実	生徒の個別面談や生徒会行事の活用、寮との連携を通じて、教員間でしっかり情報共有し、生徒個々への充実した対応、支援を目指す。特に「いじめ」について重点的に取り組む。 【活動指標】 ○学期ごとの「いじめアンケート」実施 ○自己肯定感アンケート 【成果指標】 ○認知したいじめの早期対応及び解決 ○自己肯定感アンケートにおいて生徒の自己肯定感向上70%以上	生徒アンケート「今の自分が好きだ」の回答では、3年生64%から53%、2年生71%から53%、1年生63%から56%となった。各学年ともに減少傾向にあり、自己肯定感を高めることが課題である。	※
進路指導の充実	キャリア教育全体計画の見直しを図り、社会的・職業的自立を促すようにすべての教育活動においてキャリア教育の充実を図る。 【活動指標】 ○キャリア教育全体計画の見直し	キャリア教育全体の見直しに進路指導部が取り組み「キャリア教育プログラム」を作成した。3年生も希望者については、100%の	

	○インターシップの充実 ○「進路マップ」の活用及び充実 【成果指標】 ○キャリア教育全体計画の見直し ○生徒のインターシップ満足度 80%以上 ○希望する進路先への決定率 100%	進路実現を果たした。生徒のインターンシップの満足度は 80%であった。	
生徒の心身の健康管理	個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな支援に努め、生徒が心身の健康を自己管理できる能力の育成を目指す。 【活動指標】 ○相談機能を活かした指導と助言による保健指導の実施により、命の大切さを実感させる指導の充実 【成果指標】 ○保健室来室者の減少 ○生活習慣が改善された生徒数の増加	保健室への来室者数が昨年度に続き減少傾向にあり、日々の様々な教育活動により、生徒全体が活発になってきていると感じる。養護教員と教員が連携をとり対話を中心とした指導の成果である。	
人権学習の充実	互いに尊重しあい、違いを認めあうとともに、生徒一人ひとりの自尊感情を高め、自己実現を図ることができるよう、人権感覚あふれる学校づくりに努める。また、自分の人権・他人の人権、双方を大切にできる人権感覚を育てる。 【活動指標】 ○年2回の全校討論会及び各学年学期に1回以上の人権学習の実施 【成果指標】 ○人権意識を高めた生徒の割合 75%以上	全校討論会等を 3 回、各学年3～4回の人権学習を実施した。アンケートによると、人権意識を高めた生徒の割合がおよそ 87%であった。	◎
寮活動・寮教育の充実	寮生活を通じて、一人ひとりが生活的・精神的な自立、協調性・コミュニケーション能力・自己表現力の伸張、忍耐力など人生をしっかりと生き抜いていく「生きる力」を身につける。また、ICT を活用し、自学自習等個別最適な学びを推進する。 【活動指標】 ○寮生の「整理・整頓・掃除」への主体的な取組 ○寮生が、年間をととして、寮行事、委員会活動、サークル活動、学習タイムなどを主体的に実施（特に、大台町の自然散策と学習タイムの充実を重点的に取り組む。） ○大台町のボランティア活動への積極的な参加 【成果指標】 ○寮主催の行事参加生徒の満足度(80%以上)	土日曜日などに寮生が委員会活動やサークル活動とうに日頃から、主体的に取り組めるようになった。寮主催の行事参加生徒の満足度は 80%であった。今後、生徒がさらに有意義に活動できるよう土日曜の時間の使い方や夜の学習タイムの在り方を改善していく必要がある。	◎
改善課題			
○本校の強みを生かすために総合学科として各系列が結びつきながら「深い学び」に向かう指導方法を検討していきたい。 ○入学する生徒の質が変わってきたこともあり、本校の教育活動に必要な基本的な学力とは何かを再設定する必要がある。 ○地域へのアルバイトやサークル活動に対する土日曜日の時間の使い方が充実したが、さらに有意義に時間を過ごす取組も検討する必要がある。 ○本校の教育活動に必要な基本的な学力の再設定を受けて、学習タイムでどのような取組をしていくか検討していく必要がある。			

(2)学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など

また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
開かれた学校づくりの推進	生徒の活躍する様子の積極的な情報発信に努める。 【活動指標】 ○学校ホームページ等の活用と、新聞等報道機関への積極的な資料提供による学校外への情報発信 【成果指標】 ○報道関係への掲載月1回以上	昨年に引き続き今年度も積極的な報道資料提供を行った。現在新聞報道が40件となっている。他にケーブルテレビ等の報道も数件ある。	◎
安全で快適な校舎環境	電気、給水、排水、空調、暖房設備等の校舎、生徒寮及び職員寮設備の維持メンテナンスを的確に管理するために、事務室営繕担当、学校教育技術員、舎監、寮務員など関係者の情報共有を行う。 【活動指標】 ○情報共有による修繕・整備箇所等の把握 【成果指標】 ○危険箇所等の早期の対応・修繕 ○建物・設備・備品等の状態把握に努めて、計画的な維持メンテナンス	県教育委員会事務局学校経理・施設課にも積極的な関りを依頼し、男子棟の洗濯場の増設など、施設の状況把握を的確に行い危険箇所等の早期対応を図ることができた。	◎
学校活性化の方向性の確立	活性化協議会の助言と指導の下、学校の活性化と志願生徒数の増加を目指す。 【活動指標】 ○県外PR活動への参加 年3回 ○入試委員会による生徒募集活動の充実 【成果指標】 ○志願生徒数の定員確保	地域みらい留学等の取組等により県外において3回以上のPR活動を実施した。 令和5年度に開設された「大台探究」を軸に令和6年度から取り組んでいるDXハイスクール事業と合わせて地域と連携した取組を充実している。	◎
教職員の働き方改革の推進	教職員が生き生きと教育活動に取り組めるよう、教職員が担う業務の見直しや業務の効率化に取り組み、総勤務時間縮減を図る。 【活動指標】 ○設定した定時に退校できた教職員の割合 95%以上 ○予定通り休養日を実施できた部活動の割合 95%以上 ○放課後に開催して60分以内に終了した会議の割合 90%以上 【成果指標】 ○時間外在校等時間が年360時間を超える教職員数 0人 ○時間外在校等時間が月45時間を超える教職員の延べ人数 0人 ○1人当たりの月平均時間外在校等時間 30時間以下 ○1人当たりの年間休暇取得日数 15日以上	【令和6年度実績】 ・定時退校 100% ・部活動休養日 100% ・会議60分以内 100% ・時間外在校等時間 ・年360時間超 4人 ・月45時間超 28人 ・月平均時間外在校等時間 13.4時間	

危機管理の推進	現実に即した危機管理体制を構築する。 【活動指標】 ○危機管理マニュアルの充実及び地域と連携した防災への取組 ○報告・連絡・相談を密に行い、発生事案への早期対応・早期解決 ○信頼される教職員集団づくりへの取組 【成果指標】 ○学校信頼向上委員会を開催しコンプライアンスの見直しを図る。(月1回程度)	コンプライアンス意識の向上に向けて、様々な事象を自分事として捉えることが出来るよう毎日の打ち合わせ等で周知徹底を図り、必要に応じ改善を図った。	
改善課題			
○寮の老朽化に伴い、部分的な修繕で対応できないところが出てきている。 ○県内の入学希望者数増に向けた新たな取組を考える必要がある。 ○部活動等の活性化に伴い、時間外在校等時間減少に向けた取組を考える必要がある。 ○教職員の不祥事を自分事として捉え、本校として一層信頼される教職員集団へとしていけるように取り組む必要がある。			

6 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	○中学生や中学校の教員に対して、良くなりつつある本校の学びや進路実績を一層周知すると良い。 ○「大台探究」や DX ハイスクール等の事業を今後どのように継続して追求していくのかを教員で共通認識しておく必要がある。 ○地域との連携を更に深めながら昴学園の学びを充実していった欲しい。 ○様々な場面で発表等をより増やし、生徒の自信につなげる機会を増やして欲しい。
----------------------------	--

7 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	①大台地域との連携により、生徒が様々な場面で主体的に考え行動できるようにし、将来を見据えたキャリア教育の充実 ②総合学科の特色を生かし自らのキャリアを幅広く探究しながら進路実現に向けた学びに没頭できる環境作り ③生徒の自主運営を軸に多様な価値観に触れ仲間と協力や切磋琢磨することにより社会性・人間性を高められる取組 ④寮生活において新たな環境で、様々な人との関係を構築することを通じて心身の健康を主体的に管理することができる力を身につけられる取組
学校運営についての改善策	① 入学してくる生徒の状況変化に応じた寮の施設管理等を見直し、寮の生活環境の向上に向けた取組 ② 教職員が働きやすい環境となるよう対話を重視し、様々な場面における改善